

鳥取県保健事業団における腹部超音波検査での脂肪肝所見と その他の健診データの関連について

公益財団法人鳥取県保健事業団 保健師 ○梶川貴子 前谷夏澄 谷口奈央 管理栄養士 松岡未沙

I はじめに

日本での肝臓がん死亡者数は 2000 年代前半より減少傾向ではあるが、2017 年度のがん死亡者を部位別にみると第 5 位と、未だ死因として多いがんの一つである。そして、肝臓がんの原因として、B 型・C 型肝炎ウイルスによるものが多いと考えられてきたが、近年非ウイルス性の肝臓がんが増加している。その 1 つの要因として注目されているのが脂肪肝である。疾病予防に活かせるよう、当事業団の腹部超音波検査での肝臓所見や血液データについて集計し、まとめた。

II 対象および方法

2018 年度に当事業団で職域健康診断を受診し、腹部超音波検査を実施した男性 2,382 人、女性 1,167 人、合計 3,549 人の腹部超音波検査での所見の有無、部位別所見数、肝臓所見別割合を集計した。その後、脂肪肝所見(脂肪肝、軽度脂肪肝、まだら脂肪肝を合わせたもの。記載順に症状が重い)がみられた男性 960 人、女性 246 人、合計 1,206 人の血液検査結果を男女別に、血清脂質判定割合、糖代謝判定割合、肝機能判定割合を集計した。(表 1 判定基準) なお、それぞれの項目の中で 1 番重症度の高い判定をその項目の判定とし、要観察以上を有所見とする。

表 1 判定基準

		異常なし	差支えなし	要観察	要再検査	要精密検査
血清脂質	中性脂肪	30~149 (随)30~149	150~299		300~499	~29、500~
	HDL	40~			35~39	~34
	LDL	60~119	120~139	140~179		~59、180~
糖代謝	空腹時血糖のみ	~99	100~109	110~125		126以上
	随時血糖値のみ	70~139			140~199 69以下	200以上
	A1cのみ	A1c~5.5	5.6~5.9	6.0~6.4		6.5以上
	空腹時血糖値、 A1c両方計測して ある	~99かつ A1c~5.5	①100~109かつ A1c5.6~5.9以下 ②~99かつ A1c5.6~5.9	①110~125 ②A1c6.0~6.4 ③126~かつ A1c~6.4 ④~125かつ A1c6.5以上		126以上かつ A1c6.5以上
肝機能	ALT	~30	31~35	36~50		51以上
	AST	~30	31~40	41~50		51以上
	γGTP	~50	51~80	81~100		101以上

III 結果

(1)腹部超音波検査

腹部超音波所見の有無(図 1) では、男女共に半数以上で所見がみられた。部位別所見数(図 2)では、男女共に肝臓の所見が最も多かった。肝臓所見別割合(図 3)では、脂肪肝所見が男性は 55%、女性は 39%と最も多く、男性では脂肪肝所見の中でも症状の重い「脂肪肝」が最も多くなっている。

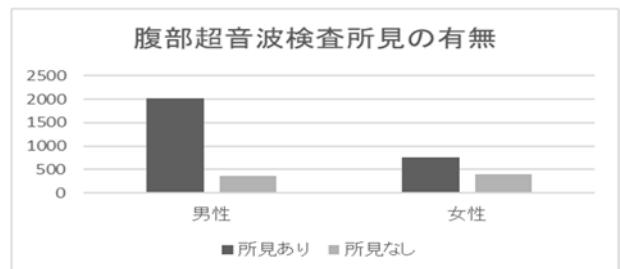


図 1 腹部超音波所見の有無



図 2 腹部超音波部位別所見数

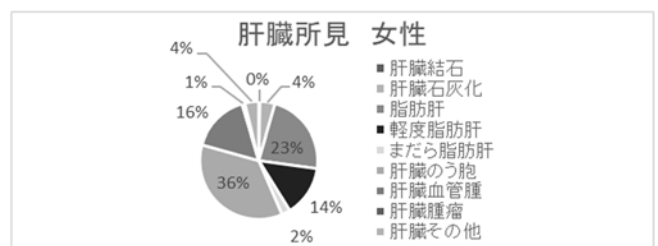
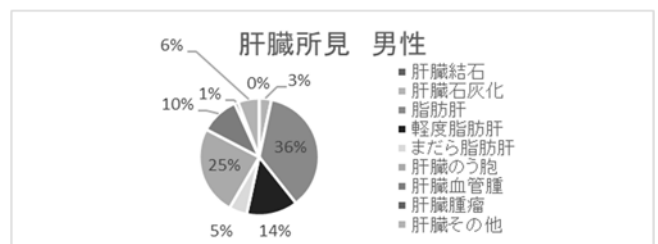


図 3 肝臓所見別割合

(2) 脂肪肝所見のある者の血清脂質判定別割合

血清脂質判定別割合(図 4)は、男女共に有所見者が約半数を占める。男性は要再検査と要精密検査が約 25%を占め、女性は要再検査と要精密検査は約 15%だが、要観察が約 30%と多くなっている。

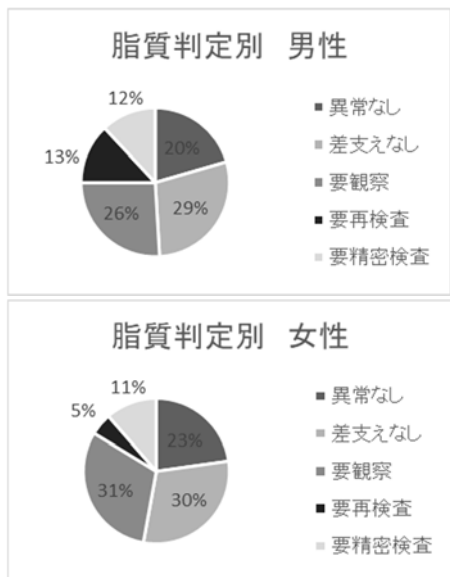


図 4 血清脂質判定別割合

(3) 脂肪肝所見のある者の糖代謝判定別割合

糖代謝判定別割合(図 5)は、男女共に同じ傾向があり、約 80%が所見なしである。要精密検査の割合は 3 項目のうち最も少なかった。

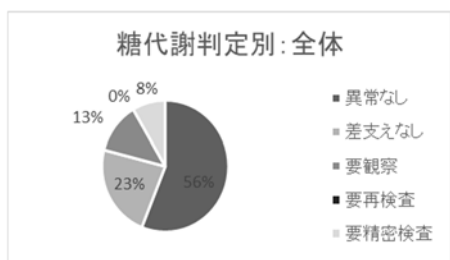


図 5 糖代謝判定別割合

(4) 脂肪肝所見のある者の肝機能判定別割合

肝機能判定別割合(図 6)は、女性の有所見者は 21%だが男性は 42%と、男女差がみられた。男性のうち要精密検査は 29%と、有所見者のうち要精密検査の割合が多かった。

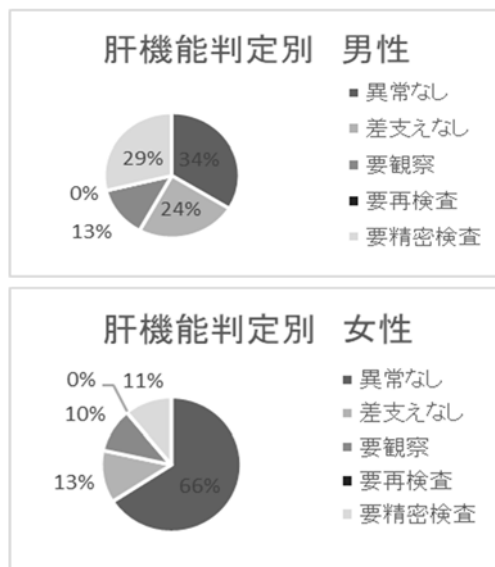


図 6 肝機能判定別割合

IV 考察・まとめ

血清脂質では、男女共に有所見者が約半数と他の 2 項目と比べて最も有所見者割合が多い結果だった。

男性では、肝機能において要精密検査の割合が 3 項目のうち 1 番多く、有所見者割合では女性の倍となっていた。男性の腹部超音波所見では、3 つの脂肪肝所見のうち症状の重い「脂肪肝」の割合が多いことも影響していると考えられる。

糖代謝では所見なしが約 80%という結果だったが、今回は既往歴について集計はしておらず、治療によりコントロールできている者もいる可能性がある。

本研究では、脂肪肝所見のある者の血液データのみの集計であり、脂肪肝所見のない者のデータとの比較は出来ていないため、脂肪肝との直接的な関係は一概には言えないが、有所見者が半数いる項目や要精密検査の判定が約 3 割を占める項目もあるため、脂肪肝との因果関係も否定できない。

今後、脂肪肝所見のない者とのデータ比較や、既往歴、BMI などの身体計測値、生活習慣を含めて集計し検討を行うことで、脂肪肝の解消や予防が疾病予防につながることや生活習慣との関連について研究を続けたいと考える。